

大学では健康スポーツについて学んでおり、卒業後はスポーツコーチングについて学ぶためアメリカの大学への留学を目指していました。新型コロナウイルス感染症拡大のため留学ビザが取得できずにいたところ、大学時代の恩師から日本福祉大学にスポーツ科学研究科が新設されることを知りました。研究に魅力を感じる教員と出会えたこともあり、進学を決意しました。



ちば ほるか
千葉 遼さん

2021年度入学
2020年3月
園田学園女子大学
人間健康学部卒業

修士論文では「スポーツにおける指導者のリーダーシップが選手の心理的特徴に与える影響」を明らかにすることを目的に、全国の大学を対象としたアンケート調査の実施をしています。研究の内容は、現在スポーツにおける社会問題の1つとして挙げられる「指導者による選手への体罰や暴力行為」の解決に向けて、指導者側のリーダーシップのあり方を探るものです。コロナ禍により、人と会うのが難しくなりましたが、大学院ではディスカッションやプレゼンが多く、場の空気感を感じられる対面形式が楽しいです。卒業後はアメリカに留学することを目標に、語学の勉強にも取り組んでいます。

スポーツと福祉の2つの側面からの学びを強く希望していたことと、日本福祉大学通学時より「スポーツを360°科学する」というモットーのもとに、幅広い視点で学びを深めることができると感じていたため、引き続きこの大学で勉強することを選びました。

現在は、バレーボール選手の予測能力に関する研究を進めています。予測能力を向上させるトレーニングを開発することで、バレーボール選手のパフォーマンス向上に繋がるのではないかと考えています。研究をするに当たっての実験環境が整備されており、その中で指導教員の先生より、研究の内容や進め方など多くのことを教えていただいています。

卒業後は、大学院で専修免許状を取得して高校の教師になることや、研究を続けて研究職に就くこと、バレーボールの指導者となることを考えています。さらには、“福祉に関する知識”を使い、今後の福祉に貢献できる仕事に就くことにも魅力を感じています。大学院までの学びを通し、幅広い視点を持てるようになり、進路の幅も広がっていると感じています。



きくち ひろき
菊池 洗希さん

2022年度入学
2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業

院生の研究テーマ・内容

・研究テーマ「大学生アスリートの競技ストレスがストレス関連成長に及ぼす影響」

約300名を対象に調査（アンケート）を行い、大学生アスリートのストレス関連成長（ネガティブなストレスイベントの経験により価値観が肯定的に変容し、自立・自律を促し、ストレス対処能力が強化されること）に影響を及ぼす日常・競技ストレスを明らかにし、性差や学年差、競技属性や競技経験年数などの関連要因について検討する。

・研究テーマ「スポーツファンの消費行動を導く要因の検討」

プロスポーツチームのファンを対象にオンライン調査を実施し、内集団ひいきとしてスポーツファンの消費行動に焦点を当て、その背後にあるメカニズムがどのように作用するのか明らかにする。

・研究テーマ「有酸素運動時（同一種目）における健常者と脊髄損傷者の酸化ストレスマーカーの変動の違いについて」

10名程の被験者を対象に、運動負荷試験や血液検査を行い、運動による生体内の酸化ストレスマーカーの変動について調べ、脊髄損傷者と健常者のスポーツの安全性を明らかにする。

研究指導に関する流れ

